

まずは相談！  
**募 集**



**沼津市民間支援 まちづくりファンド事業**

「民間支援まちづくりファンド事業」は、地域に人のつながりを生み出す取り組み、その拠点となる交流の場づくりなど、民間が主体となった「まちづくり活動」や「まちづくりに資する施設整備等」に係る経費の一部を支援する制度です。

相談は随時受け付けをしていますので、お気軽にお問い合わせ下さい。

**募集期間** 12月8日(火)～令和3年1月22日(金)（1月15日(金)までに事前相談が必要です）

**対象事業** 4月1日以降に取り組むまちづくり活動

**応募方法** 市役所2階地域自治課または市ホームページにある応募書類を直接

※補助金を交付する事業は、外部の有識者で構成する「沼津市民間支援まちづくりファンド事業アドバイザー会議」の意見を参考に選定します。

※申込方法等の詳細は、市ホームページをご覧ください。

④地域自治課  
055・934・4807

**沼津を元気にする  
まちづくり活動を支援します！**



狩野川沿いで複数のミュージシャンによる質の高い音楽演奏が披露された「狩野川ミュージックフェスタ(水辺の音楽祭)」。ソフト部門で採択された取り組みのひとつです。

**ソフト部門**

ソフト部門では、地域活性化や住民の生活向上に役立つまちづくり活動を募集します。

①スタート支援型事業  
これからまちづくり活動をはじめ個人または団体が提案する事業

補助率 対象となる経費の10分の9

交付上限額 10万円

②ステップアップ型事業  
すでにまちづくり活動に取り組んでいる個人または団体が提案する事業

補助率 対象となる経費の3分の2  
(継続事業は2分の1)

交付上限額 30万円

◆いずれも  
対 象 個人または団体



ハード部門を活用し、商店街の2階にオープンしたデザイン事務所には図書館も併設され、交流の拠点となっています。

**ハード部門**

ハード部門では、市内にぎわいやまちづくりにつながる施設整備等を募集します。

①地域住民等交流施設整備事業  
多世代が自発的な活動を行う交流施設や、ビジネス分野における交流施設等の整備

②観光拠点整備事業  
観光客の増加を図るための利便施設や、観光資源の情報発信のための拠点整備

③水辺の景観形成事業  
狩野川や海岸線沿いなど水辺空間の修景や、にぎわい創出のための施設改修等

④古いまちなみ保全事業  
市内に点在する古民家や蔵などを活用し、新たな事業を実施するための施設改修等

◆いずれも  
対 象 個人または団体

補助率 対象となる経費の2分の1  
(一定の条件を満たす場合は5分の4)

交付上限額 100万円(特に公益性が高い事業は250万円)



**楽しく、一緒に。  
熱意を持って。**

**沼津市役所地域自治課**

こんな取り組みも  
ファンド事業に  
採択されています

**障害のある子どもたちの場づくりを。**

作品を通じて、障害を抱える子供たちを身近に感じてもらふこと、子供たちの将来の「しごと」や「やりがい」につなげることを目的に開催されているアート展。コロナ禍の今年はオンラインで開催。



**心のままアート展**  
活動団体：障害者のしごとを考える母の会  
活動開始：平成29年  
ホームページ  
<https://kokoronomama.wixsite.com/iroin-art/>

**気軽に学び、仲間を増やす。**

英語に自信のある高校生が先生役となって、英語のスキルを共有する場を作り出すプロジェクトで愛称は「Eサポ」。参加者は学ぶというよりも、楽しく英語に親しみ、英語力をつけながら仲間を増やしています。



**ウィークエンドイングリッシュサポートインヌマツ**  
活動団体：Eサポ  
活動開始：平成30年  
活動エリア：エルパシート(大手町)他

市役所2階にある地域自治課は、住みよい地域づくりのための自治会活動のサポートや連絡調整をはじめ、市民の皆さんが行うまちづくり活動の支援、在住外国人の皆さんにとっても暮らしやすいまちづくりの推進などに取り組んでいます。

また、すべての人が性別にかかわらず、個性と能力を發揮できる男女共同参画社会の実現をめざして男女共同参画の推進にも取り組んでいます。

協働推進係の岩井一平主事は市の公民連携推進プロジェクトチームの一員としても、市民の皆さんが行うまちづくり活動に伴走しています。

「支援、なんて立派なことをしているつもりはありません。楽しそうなことを熱意を持って一緒になってやっていく、そんな意気込みで取り組んでいます」と話してくれました。

これまでに、商店街でのイベントや施設整備など多岐に渡る取り組みを担当し、ボランティアとしてイベントの運営に関わることもあるといいます。

「一緒にやることで、互いの理解が深まる。現場の雰囲気や、やらなきゃわからないことがいっぱいありました。大変なことを共有すると、また一歩次に進めるような気がします」と話し、今後も、老若男女を問わずたくさんの方からの相談に乗っていききたいとの抱負を教えてくださいました。